学校図書館職員支援に関する一考察

A consideration of the way to support for school librarians

－学校図書館支援ポータルサイトの構築を目指して－

Aim at building of a portal site for School Libraries

大作光子*，長屋俊*，高橋雅裕*，落合奈緒美*，片山ふみ*，松本圭以子*，横山寿美代**

DAISAKU Mitsuko*，NAGAYA Shun*，TAKAHASHI Masahiro*，OCHIAI Naomi*，

KATAYAMA Fumi*，MATSUMOTO Keiko*，YOKOYAMA Sumiyo**

* 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科，** 調布市立第七中学校

* Graduate School of Library，Information and Media Studies，University of Tsukuba

** Chofu-city Dainana junior high school

あらまし： SLiiiC プロジェクトによる，学校図書館を支援することを目的としたポータルサイト構築の試みについて報告する。多くの学校図書館職員が一人職場であるなかで，技術の獲得や日々の自己研鑽，また情報交換の場としてのポータルサイトの可能性を検討している。本稿では，質問紙調査を踏まえたコンテンツ制作過程を紹介する。さらに，学校図書館職員へのインタビュー調査から今後のコンテンツ制作を考察し，ポータルサイトの方向性を提示する。

キーワード： 学校図書館，支援，ポータルサイト，コンテンツ制作，NetCommons

１．はじめに　－SLiiiC プロジェクトの概要－

近年，学校図書館では司書教諭や学校司書などの学校図書館職員が配置され，また総合的な学習の時間などにおいてその活用が期待されるなど，その存在に注目が集まっている。しかし，学校図書館職員の多くは一人職場であるため，知識や技術，その職場特有の知恵といったものが伝承されにくいなどの問題がある。また，行政による研修などのサポート体制も十分に整備されていない。そこで，筑波大学大学院図書館情報メディア研究科の有志は，“ SLiiiC[1] “ (スリック)プロジェクトを 2006 年１月に立ち上げた。本プロジェクトは学生や学校司書，公共図書館員など約 30 名（10 月末現在）から構成され，“ 学校図書館 ”を支援することを目的としたポータルサイトの構築を試みている。これまでに質問し調査を実施し，コア･コンテンツを決定した（１章）。続いて夏合宿を通してコンテンツを作成し（２章），さらに現場の学校図書館職員へのフォーカス･グループ･インタビューの調査から今後のポータルサイトに望まれるコンテンツを検討した（３章）。

１．１　コンテンツ　－質問紙調査を通して－

ポータルサイトのコア･コンテンツを決定するために質問紙調査を行い，学校図書館職員の抱える問題点を整理した。この調査は 2006 年６月に実施し，小･中･高の学校図書館職員，約 20 名を対象に行ったものである。この結果を踏まえ決定したコア･コンテンツについて述べる。

１．２　コア･コンテンツについて

回答結果からは「教師とのコミュニケーションのむずかしさ」，「勤務環境への不満や不安」などが得られた。それらは勤務時間が短い，勤務条件の不安定さ等の理由から発生したと考えられる。また，教師側の意識の問題，たとえば「学校図書館を使うという発想がない」，「そもそも学校図書館の何たるかをわかっていない」という声もあった。これらの問題の解決方法として，学校図書館

[1] SLiiiC → School Library Ⅲ C → iiiＣ → communication /collaboration /combination

に関わる人材が知識の獲得や技術を体得し，実績を積み上げていくことが必要である。学校図書館活動の活性化が，学校図書館と学校図書館職員の価値を学校や教師へのアピールにつながる。それを支援するためには，学校図書館職員が技術を磨く研修の場や，情報交換を行う場が必要である。しかし，学校図書館職員といっても経験にばらつきがあり，それによって必要となる技術が異なってくる。新人は主に日常業務に関する技術を身につけ，中堅からベテランになるにしたがい基礎的な技術を踏まえた応用力が問われるだろう。

以上から, 新人を意識したコンテンツとして， 1.日常的に必要な技術の習得を可能とするもの，中堅からベテランを意識したコンテンツとして，活発な取り組みをしている 2.活動事例の紹介，そして学校図書館運営に欠くことのできない 3.運営マニュアルの収集の３点をコア･コンテンツとした。

２．コンテンツの収集･加工･提供

本章では,「コンテンツの収集･加工･提供」（この一連の流れを“ コンテンツ化 ”と呼ぶ）の過程を紹介する。ポータルサイトを構築するにあたり, NetCommons[2]を用いた。NetCommons は E-learning などを意識して開発されたコンテンツ･マネジメント･システム（CMS）である。コンテンツ提供に必要とされるモジュールが用意されており，導入のしやすさなどの利点から採用した。

２．１　日常的に必要な技術に関するコンテンツ

学校図書館運営に必要な日常的な技術をコンテンツ化した。学校図書館職員は採用されても研修がない場合も多い。また多くが一人職場であるため，日常的業務の技術は自分自身で修得していかなければならない。これらの技術習得を支援するための具体的なコンテンツは，ブックコートのかけかた･本の補強･読み聞かせ･ブックトーク･本の展示･パスファインダーの作り方･調べ方ガイドの作り方などが挙げられる。

コンテンツ化に際しては，現役の学校図書館職員が休暇を取れる学校の夏休みに合宿を行い，実際にブックコートのかけかたを実演してもらうことで,“ 生きたコンテンツ ”とした。具体的な作業の流れは 1.作業の重要なポイントについて確認 2.シナリオ作り 3.ブックコートをかける作業の映像を撮影 4.映像の編集である。なお，アクセシビリティに考慮しテキスト情報を付加した。

夏合みの合宿は，定期的に実施しているミーティングに参加できない学校図書館職員との議論の機会，また新たなコンテンツ制作案や今後の活動について考える契機にもなった。

２．２　学校図書館を利用した活動事例に関するコンテンツ

学校図書館を利用した活動事例をコンテンツ化した。ひととおり基礎を習得した学校図書館職員は応用として，先進的な事例や他の学校図書館の活動事例を参考に，これまでに，山形県鶴岡市立朝暘第一小学校[3]と千葉県柏市立西原小学校を取材した。

山形県鶴岡市立朝暘第一小学校は，学校図書館大賞の受賞校であり，学校図書館活用教育に力を入れている学校である。学校図書館を利用した授業や学校図書館を見学し，学校図書館職員の取材を行った。

千葉県柏市では学校図書館アドバイザー[4]が司書教諭と連携し, 学校図書館の環境整備とその活用を積極的に進めている。柏市立西原小学校の事例では，音楽の授業に読み聞かせを取り入れた授業を取材し, 記録した画像や映像を加工しコンテンツ化した。今後も自薦他薦による取材を続け, 様々な学校図書館における活動事例を取り上げていく。

---

[2] オープンソースのサイト構築・情報共有基盤ツール。国立情報学研究所で研究・開発が行われている。
[3] 現在のところ学校側からコンテンツ化の許諾を得られていないので，公開はしていない。
[4] 千葉県約 60 校の公立小･中学校を巡回しながら，図書館オリエンテーションや授業実践などを行う。本市の第七小学校と中央図書館は平成 17 年度に読書活動優秀実践校･図書館として文部科学大臣表彰を受賞。

以上，本プロジェクトにおける２つのコア･コンテンツとコンテンツ化について紹介した。３点目の運営マニュアルについては，現在のところポータルサイトへの掲載許諾やコンテンツ表現方法について検討中である。

３．インタビュー分析から今後の課題と展望

３．１　調査目的

今後のコンテンツ制作の方針を分析するため，学校図書館の現状を把握することを目的としたフォーカス･グループ･インタビューを実施した。現在のコンテンツを省察するとともに，より良いコンテンツ制作へ向けた考察を行うことを目指した。

３．２　調査対象

夏合宿に参加した学校図書館職員を調査対象とする（表１）。対象者が３人と少ないが，小･中･高校と校種を網羅していること，合宿を通してコミュニケーションを取り合った間柄であり，活発な議論が可能であることも考慮すると，フォーカス･グループ･インタビューの長所である，多様な意見を質的な側面から汲み取ることに適していたと思われる。

３．３　調査方法

３．３．１　質問内容の決定

インタビューの実施に際して，あらかじめ３名の司書に行った質問紙調査の回答をもとに質問項目を決定した。３者ともに関心がある以下の３点を中心に質問をした。

1 .図書委員会の活動　　2 .レファレンス　　3 .選書/受入/整理業務

３．３．２　データ分析の方法

インタビューデータの内容分析を行った。分析の担当は主分析者１名，副分析者１名，作業手順は表２の通りである。

表 1：対象者プロフィール

校種	公私	職名	勤務年数	関心
小	公	図書館協力員	1年半	読み聞かせ，選書
中	公	学校司書	3年	蔵書構築
高	私	司書教諭	17年	学校図書館職員の専門職意識の向上

表 2：作業手順

手順	作業内容	分析者
1	インタビューデータの情報単位化	A
2	カテゴリー作成と名称付与	A･B（各自）
3	総合カテゴリ（分類）の設定	A･B（討議）
4	解釈のためのポイントの決定	A･B（討議）

３．４　分析結果と考察

インタビューの解釈のポイント（Discussion Point：DP とする）は表３のように集約された。

解釈のためのポイントとは，インタビュー全体の発言の背景を考慮し，さらに分析が必要とされる部分を焦点化したものである。焦点化の理由は河西ら（2005）の先行研究の枠組みを参考に，　１.複数の発言者の支持がある　２.個別に表れているが同じ要因･背景から発していると思われる複数のカテゴリーの統合　３.質問紙調査などには表れにくい重要だと思われる意見を対象とした。

表 3：解釈のためのポイント

現状把握	コンテンツ化へ向けた示唆
Dp1: 図書委員会の活性化 Dp2: プライバシーの問題 Dp3: 書評の活用 Dp4: 蔵書管理 Dp5: 勤務時間不足の影響	Dp6: 実践事例の収集･提供 Dp7: 書評データベースの提供

現状把握として Dp１や Dp２では，図書委員会の活性化とそれに伴うカウンター業務でのプライバシーの問題について白熱した意見が交わされた。そこで，図書委員会の児童･生徒を積極的に取り込んだ学校図書館運営を行うためにも，ポータルサイトでの実践事例の収集と提供が望まれるとい

う発言があった。また同様の意見はレファレンスについても得られた。

選書について Dp３では，新聞，週刊誌，テレビ等さまざまなメディアから情報を得ることが必要だという意見が得られ, これらのメディア情報を提供するコンテンツが Dp７の書評データベース提供という形で望まれた。

さらに現状では蔵書管理の方法にばらつきがあることや，非常勤務体制から勤務時間が不足し，それぞれの学校ごとに日常的な業務に支障があることも見出すことができた。職務体制については「にわか司書」の存在も明らかになった。これは校務分掌による司書教諭などの担当者のためその職責を果たせない人や，時間不足から選書の判断を学校図書館用運送本（セット本）に頼る傾向がある人のことである。今後はそれらの人の自己研修を促すようなコンテンツを考えたい。

４．今後の課題

学校図書館という職場は，他の図書館と違って一人職場であり，その各種体制から，技術や情報の伝承が行われにくいという問題があった。そこで，インターネットを通じてコンテンツを提供する，もしくは学校図書館職員同士が情報共有のための場を提供するという支援の試みを本発表で示した。実際に活動を通して分かったことだが，コンテンツ化することは非常に大きな労力が必要である。今後は，コンテンツ化のノウハウを蓄積していくとともに，コンテンツを参照し，利用した人たちの反応や意見などが，コンテンツに反映されるような，動的な仕組みづくりも含めてコンテンツ制作の可能性を追求することを課題としたい。

また，学校図書館には専門職の配置が望まれているものの，現状としてさまざまな立場で関わる人たちがいる。そのような特殊な事情も鑑み，本ポータルサイトの利用対象には，校種あるいは，学校図書館職員だけでなくボランティアなど立場を問わず，また学校図書館の利用者である児童・生徒そして教師をも含み広く設定している。つまり，SLiiiC の目指すものは，特定の立場の学校図書館職員を支援するためのポータルサイトではなく，学校図書館に関わる全ての人たちの活動を支援していくためのポータルサイトの構築であるという事だ。今後も常にこの前提に立ち戻り，ポータルサイトの運営を続けていきたい。

５．結び

本発表は, 2006 年１月に活動を開始した SLiiiC プロジェクトの活動報告という形で省察ながら報告したものである。SLiiiC が発足して一年に満たないが，徐々に参加者層と活動範囲は広がりつつある。本発表はその第一段階として，現場の学校図書館に携わる方々と繋がること，コンテンツ制作することの困難さを理解するためのものでもあった。今後は大学と社会の繋がりを意識しながら，コンテンツを持続的に制作できるための仕組みづくりなどにも取り組み，さらなる実践の活発化に貢献していきたいと考えている。最後にプロジェクトの開始から暖かく見守っていただいております，NetCommons 開発リーダーの新井紀子先生に感謝申し上げます。

参考文献

[1] 新井 紀子. “ 教育機関向けワンストップサービス構築 ソフトウェア　NetCommons について ”. 情報管理. Vol. 49,　No. 7,　2006,　p.379-386 .

[2] “山形県鶴岡市立朝暘第一小学校”.
入手先<http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/school/primary/1st/index.html>(参照 2006-10-31)

[3] “千葉県柏市立西原小学校”.
入手先<http://www.nishihara-e.kashiwa.ed.jp/index.html>(参照 2006-10-31)

[4] 河西由美子[ほか] .学校図書館運営担当者を対象としたフォーカス･グループ･インタビュー調査に関する報告. 日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱. 日本図書館情報学会. 2005,　p.51-54.